

埼玉アートシアター通信

2017 7月-8月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.70

《世界ゴールド祭》キックオフ!

World Gold Theater Kick Off!

さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

藤田貴大ワークショップ公演Vol.2
『ハロースクール、バイバイ』

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリ
『LAST WORKーラスト・ワーク』

大塚直哉

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

小曾根 真

CONTENTS

- 03 〈PLAY〉 超高齢社会に、芸術で応答せよ
さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』 岩松 了 Interview
《世界ゴールド祭》キックオフ!
- 08 〈PLAY〉 〈彩の国シェイクスピア・シリーズ〉2代目芸術監督 吉田鋼太郎 初演出
彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』 松岡和子 (翻訳) Interview
- 10 〈PLAY〉 つくっていた時間全部が作品になる
藤田貴大ワークショップ公演Vol.2『ハロースクール、バイバイ』
藤田貴大×長谷川洋子
- 12 〈DANCE〉 バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORKーラスト・ワーク』
- 14 〈MUSIC〉 もっと知りたい! ポジティブ・オルガン
大塚直哉レクチャー・コンサート
ポジティブ・オルガン in アンサンブル
- 15 〈MUSIC〉 世界のトップ・オーケストラ首席奏者たちによる究極の木管五重奏
アンサンブル・ウィーン=ベルリン
- 16 〈MUSIC〉 こんな音楽があるのか! プロコフィエフにノックアウト
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
NHK交響楽団 リオ・クオクマン (指揮) 小曾根 真 (ピアノ)
小曾根 真 Interview
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
蜷川幸雄氏一周忌、メモリアルプレート・ショーケース設置
- 24 〈COLUMN〉 岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

【表紙】カンパニー・オブ・エルダース Photo©Jane Hobson

編集©川添史子、柳原律子 デザイン©柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.July 2017 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2017年6月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



さいたまゴールド・シアター第5回公演『ルート99』 Photo©宮川舞子

超高齢社会に、 芸術で応答せよ

この秋、彩の国さいたま芸術劇場は高齢者舞台芸術にフォーカス! 大ホール(インサイド・シアター)では、岩松了作・演出によるさいたまゴールド・シアター最新作『薄い桃色のかたまり』を上演、小ホールでは、高齢者表現を取り上げたワークショップやシンポジウム『《世界ゴールド祭》キックオフ!』開催と、劇場全体がエネルギーな高齢者パワーに包まれる。故蜷川幸雄の革新的な芸術性と、挑み続ける精神を、どう引き継いでいくか……。劇場の新たな第一歩を、特集で紹介しよう。



カンパニー・オブ・エルダース Photo©Eille Kurtz

自分の演劇を 壊すものと出会う

さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』

岩松 了

(作・演出)

I n t e r v i e w

これまで『船上のピクニック』（2007年）、『ルート99』（2011年）という傑作群像劇を高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」に書き下ろしてきた岩松了が、待望の新作を放つ。福島をモチーフに描くという『薄い桃色のかたまり』は、蜷川幸雄の遺志を引き継ぎ、岩松自身の演出により上演することが決定した。注目作の構想には、蜷川幸雄へのオマージュも込められていると話す。

取材・文 ● 川添史子

——「次は福島をモチーフに」というのは、生前の蜷川幸雄さんとお話されていたそうですね。

はい。企画会議を開いたわけでもないですし、あらたまって相談したわけでもないのですが、蜷川さんとの会話の中で自然とテーマが見つかりました。

——昨年の夏と今年の春、福島へ取材に行かれたと伺いました。

取材で訪れた富岡町（東京電力福島第1原発事故により全域避難区域。現在は一部解除）は震災被害が色濃く残る町で、人がいなくなった家がぎっしり並ぶ風景は強く印象に残りました。ただ、〈震災の爪痕〉みたいなことはみんなニュースで分かっていることですし、演劇として立ち上げるためにはある種の象徴性を引き出して、普遍にたどり着かないといけないと思っています。「さいたまゴールド・シアター」が抱え

る問題を福島に置いてみたらどうなるのか。そこも考えてみたいと思っています。——意味深とか、想像がふくらむタイトルですね。

富岡町・夜の森で見た桜から付けたのは間違いないんですけども、散ろうとしているのか咲こうとしているのか、これから始まろうとしているのか終わろうとしているのか。どちらか分からないようなものの幻影を重ねたいと思っています。何か圧倒的なものがある中で、うっすらと何か芽生え始め動いている。そんな抽象的なイメージを託したいと思いました。

蜷川さんへのオマージュ

——これまで岩松さんがゴールドに書き下ろした作品は蜷川さんの演出でしたが、今回、初めてご自身で手掛けというのも楽しみです。執筆する際、そのことは影響あ



Photo © 宮川舞子



①



②



③

岩松 了

Ryo Iwamatsu

劇作家・演出家・俳優・映画監督。1989年『蒲団と達磨』で第33回岸田國士戯曲賞、1993年『こわれゆく男』、『鳩を飼う姉妹』で第28回紀伊国屋演劇賞個人賞、1998年『テレビ・デイズ』で第49回読売文学賞を受賞。近年作・演出を手掛けた作品に『青い瞳』『家庭内失踪』『シブヤから遠く離れて』『少女ミウ』など。さいたまゴールド・シアターには、『船上のピクニック』（2007年）、『ルート99』（2011年）を書き下ろしている。

①富岡町夜の森桜並木のライトアップ
②再建中の富岡駅
③夜の森桜並木の大半は帰還困難区域指定されており自由に通行できない

チケット発売中

さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』

9.21(木)～10.1(日)

彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)

[作・演出]岩松 了 [出演]さいたまゴールド・シアター ほか

チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般4,000円 メンバース3,600円

※開場は開演の30分前です。
※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。
※開場時間を過ぎますと整理番号は無効になります。予めご了承ください。
※本公演は大ホール舞台上の特設劇場での上演のため、客席及び椅子の形状が通常と異なります。

	9.21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10.1
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00											
18:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

休演

りますか？

それはありますよ。人任せにできないですし(笑)、「セリフをちゃんと覚えなさい」というダメ出しをしなくてもいいような本を書こう……なんて思っているし。通常、僕が書く戯曲は正確さを求めた、スピード感ある対話劇で、それによって緊張感やある空気を生んだりする芝居です。でも彼らとやりたいことはそれではないし、ゴールドの人たちがこれを聞いたら怒るかもしれませんけれど、「セリフを覚えきれないかもしれない」前提で本を書くと思うんです。でもこれはマイナス要素ではなくて、僕の中に新しい演劇的な意味合いが生ま

れるチャンスだと思っている。そういった状況でも演劇が成り立つというのは、これまで試したことがないことです。ヘンな話、僕が今まで築いたものを壊そうとする人たちが演じるワケです。そこから生まれるドラマ性があればいいなと。10年前だったら、こんなこと思いもしなかったと思う。

——それはどういった心境の変化なんでしょうか？

それはやっぱり、自分もこの『船上のピクニック』を書いた55歳から65歳になり、彼らの平均年齢も68歳から78歳になったということでしょうね。この年齢に

なって、やっと自分の演劇を壊すものと出会えそうだという期待があります。今回は主張のある舞台美術を考えていて、大きな構造の中でうごめいている人を見せたい。ややもすると美術だけがすごく目立って、人物は小さく見えるというような時間があってもいいかな、なんて思っています。——舞台美術と人間が等価になるのは、蜷川さんのお仕事を彷彿とさせます。

そうですね。僕はどちらかというところでも大丈夫、会話をすれば、人間同士に感情が生まれてくる」という芝居をつくってきた人間。でもこの舞台の演出を考える時、「蜷川さんだったらどうするだろう」と

いう思いはわきますよね。巨大な階段の前に立つのか、鬱蒼とした森に立つのか——蜷川さんは人がどんな背景の前にいるのか、舞台美術に神経を注ぎ、その大胆さを演劇として取り込む方でした。僕自身も年を経るごとに、そういうところに演劇性を見つけていくようになってきていますし。そうするとだんだん、おぼろげながら蜷川さんがやってきたことの意味が分かってくる。今回は特にゴールドの公演ですし、やはりオマージュというか、「僕は蜷川さんから、こういうことを学びました」ということを伝えたいという気持ちは、自分のどこかにありますね。

高齢者が輝けば、世界はもっと楽しくなる！ 《世界ゴールド祭》キックオフ！

文●川添史子

2006年1月、彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督に就任した故蜷川幸雄がまっさきに打ち出したのが、演劇経験の有無を問わず高齢者演劇集団をつくる構想だった。この呼びかけで同年に発足し、話題作を次々と世に送り出した「さいたまゴールド・シアター」は、現在も同劇場の大きな柱として活動中。超高齢社会に突き進む日本の歩みとシンクロするようなこの活動は、多くの人の心を揺り動かし、今なお〈高齢者による表現の可能性〉を見せてくれている。この蜷川が遺した大きな財産を活用、発展させるために、高齢者を対象とした新たな企画が動きはじめた。その第一歩として、今年の9月に開催されるのが『《世界ゴールド祭》キックオフ！』だ。

これは、高齢者による舞台芸術を集めた国際フェスティバル開催を目指し、日本と世界のアーティスト、専門家、実際に参加している高齢者が、各々の経験、知識、問題意識を出し合い、共有するシンポジウム。舞台芸術が高齢者の後半生をいかに豊かなものにするかを、実例を示しながら意見交換を行う。

日本からは、昨年12月、埼玉発の大群集劇『1万人のゴールド・シアター2016』を率いたノゾエ征爾（脚本・演出）の参加が決定。さいたまスーパーアリーナで約1,600人の高齢者がプロの俳優らと繰り広げた壮大な作品について語る。

英国からは、サドラーズ・ウェルズ劇場の高齢者ダンス・カンパニー「カンパニー・

オブ・エルダース」と、オールバニー劇場を拠点に高齢者に寄り添う芸術活動を展開している集団「エンテレキー・アーツ」を取り上げ、ディレクターらによる活動紹介、ワークショップなどを行う予定だ。英国の劇場では、早くから高齢者のための表現プログラムが積極的に取り入れられており、着実に経験を積み重ねて来たという。先駆的な試みや実績を学び、体験するチャンスとなるだろう。

表現が高齢者の人生に潤いを与え、芸術に新たな価値をもたらす。実際にそれを見てきた劇場〈だからこそ〉を探る——。開かれた劇場としての、新たな挑戦がはじまる。

英国の“ゴールド・シアター”をご紹介します！



サドラーズ・ウェルズ劇場

高齢者ダンス・カンパニー「カンパニー・オブ・エルダース」を擁するサドラーズ・ウェルズ劇場は、コンテンポラリーを中心とした欧州を代表するダンス専門劇場。彩の国さいたま芸術劇場でも紹介された、アクラム・カーン、ホフェッシュ・シェクターといった、アーティストックな指向のダンス作品を多く生み出している。1989年から活動している「カンパニー・オブ・エルダース」は、60歳以上の男女が参加。英国を代表する振付家に新作を委嘱し、毎年2回、公演を行っている。2009年にBBCで紹介されたことをきっかけに存在が一気に知られ、国内外で活躍している。



Photo©Ellie Kurtz



エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場

孤立しかねない社会的弱者たちの生活の質を高めるため、ロンドン南東の地域社会に根付いた活動を長年続けている、インディペンデントな芸術団体「エンテレキー・アーツ」。同地域のコミュニティーシアター「オールバニー劇場」とパートナーシップを組み、知的・身体障害、認知症といった、手助けがないと外に出られない人たちにコミットするさまざまなプログラムが充実。グループの家族、友人、近隣住民といった支援者とともに、パブリック・スペース、教会、学校、介護施設、文化施設、サッカー場などでもプロジェクトを実行している。



Photo©Roswitha Chesher

《世界ゴールド祭》 キックオフ！

テーマ：高齢社会における芸術文化の可能性 —— 劇場は地域に何をもたらすことができるのか
日時：9.21（木）～24（日） 会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
参加費：シンポジウム・ワークショップ 参加無料（※要事前申込） レセプション（22日）2,000円（※参加費は当日、会場受付にてお支払いください。）

9.21（木） 【DAY1 | シンポジウム】

- 13:00～15:00 サドラーズ・ウェルズ劇場の事例（英国）
〈発表者〉ジョス・ジャイルズ（ラーニング&エンゲージメント部門 ディレクター）、カンパニー・オブ・エルダース団員 ほか
- 15:15～17:15 彩の国さいたま芸術劇場の事例
〈発表者〉ノゾエ征爾（脚本家・演出家・俳優）、
「1万人のゴールド・シアター2016」出演者 ほか

9.22（金） 【DAY2 | シンポジウム&ワークショップ】

- 12:00～14:00 エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場の事例（英国）
〈発表者〉デービッド・スレイター（エンテレキー・アーツ ディレクター）、
ギャビン・バーロウ（オールバニー劇場 芸術監督）
- 14:15～15:15 カンパニー・オブ・エルダース ダンス・ワークショップ体験（定員30人）
〈講師〉シモーナ・スコット（カンパニー・オブ・エルダース リハーサル・
ディレクター）
- 15:30～17:30 ラウンド・トーク：高齢社会に輝きをもたらす、これからの劇場の
在り方を考える
〈座長〉太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 主席研究員）
〈パネラー〉ジョス・ジャイルズ、デービッド・スレイター ほか
- 18:00～20:00 レセプション

9.23（土・祝） 【DAY3 | 60歳以上の男女のためのダンス・ワークショップ】

- 〈講師〉シモーナ・スコット
※60歳以上限定・各回入替制・定員20名（各回）
10:30～12:30 ワークショップ①
14:00～16:00 ワークショップ②

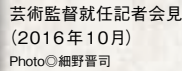
9.24（日） 【DAY4 | 60歳以上の男女のためのダンス・ワークショップ】

- 10:30～12:30 ワークショップ③

【募集要項】

- 申込締切：9月15日（金）
※シンポジウムは当日の参加もお受けいたしますが、事前申込の方のご入場を優先させていただきます。
※ワークショップ（22日～24日）の受講を希望される方は、必ず事前にお申込ください（希望者多数の場合には先着順とさせていただきます）。
○申込方法
「世界ゴールド祭」チラシ裏面または財団HPからダウンロードした「参加申込用紙」に必要事項を記入のうえ、メール、ファクシミリ、または郵送にてお申込みください。

※お申し込み方法など詳細は財団HP・チラシ等をご参照ください。



〈彩の国シェイクスピア・シリーズ〉2代目芸術監督
吉田鋼太郎 初演出
彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』



俳優の吉田鋼太郎が新しい芸術監督に就任して再スタートを切る「彩の国シェイクスピア・シリーズ」第33弾に選ばれた作品は『アテネのタイモン』。上演機会が少ないという同作の魅力、見どころを、翻訳を手掛ける松岡和子氏にみっちりと解説してもらった。

松岡和子 (翻訳) Interview

取材・文◎市川安紀（演劇ライター）

日本はおろかイギリスでも滅多にお目にかかれないレア作品の登場である。松岡氏をして、日本とNYで一度ずつ、生の舞台を観たきりだとか。シェイクスピア・シアターが日本で上演したその貴重な舞台で主演していたのが、吉田鋼太郎だ。

「これがものすごく面白かったです。シェイクスピアが若い劇作家のミドルトンと共作した作品と言われていますが、訳してみると、タイモンセリフは明らかにシェイクスピアが書いていることがわかります。とにかく言葉の力が強いんですよ」

裕福なアテネの貴族タイモンは天井知らずの気前良さで大盤振る舞いを続け、気づけばスッカランの一文無しに。するとそれまで友だちだと思っていた周囲の人々は潮が引くように去ってしまった。まさに金の切れ目は縁の切れ目。裏切られたタイモンは人を恨み世を恨み、世捨て人となってしまうのだ。

「タイモンの呪詛の言葉の迫力たるや、も

う凄まじいんです。四大悲劇と同時期に書かれた作品で、タイモンとリア王の呪詛の言葉には共通するものがありますね。エリザベス一世が死去して国王が替わった時代の空気、シェイクスピア自身が家族を次々に亡くしたことなど、作家としての気分が悲劇に向いた時期ではないでしょうか」

“金”が絡んだ悲劇のゆくえ

タイモンの悲劇は金に群がる輩を友だちだと信じていた、言わば人を見る目のなさゆえの自業自得でもあるのだが、何よりも一番の痛恨事は、主人思いの執事フレヴィアス（横田栄司）の忠言に耳を貸さなかったことだ。

「タイモンは後になって『なぜ早く私の財政状態を言わなかった？』なんてフレヴィアスを責めるんです。そりゃないよ、ですよ（笑）。今回訳していて気づいたんですが、リア王はケントやコーディリアではなくゴネリルとリーガンを、オセローはデ

ステレオナやキャッシューではなくイアゴ
を、『アントニーとクレオパトラ』のアント
ニーはベテラン兵士ではなくクレオパトラ
をというように、この前後に書かれた悲劇
の主人公たちは、信じるべき人を信じず、
信じてはいけない人を信じてしまう。つま
り聞くべき言葉を聞かず、聞いてはいけな
い言葉にばかり耳を傾けたことから引き
起こされる悲劇なんです。初期の悲劇『タ
イタス・アンドロニカス』にもその兆しは
あって、タイタスは息子たちの言うことを
聞かなかった。「信じるべき人を信じない」
という、人間を悲劇に追い込む大きな要素
が深い地下水のように流れていて、この時
期に一気に噴出したのでしょうかね」

そうした悲劇の系列の中でも『アテネのタイモン』が異質なのは、家族の匂いがしないことだと松岡氏は指摘する。

「シェイクスピアで一番苦味のある悲劇は『リア王』だと思いますが、最後に全員が悲惨な死を迎えるとはいえ、リアは最愛の娘コーディリアと再会して和解しますよね。だからこれは奇跡的な「幸福な悲劇」だと思うんです。ところが『タイモン』には血縁関係者が一人も出て来ませんし、甘さのカケラもないんですよ。観る側も生きているのが嫌になるかもしれない(笑)」

しかも物語の中心は“お金”ときている。
金が絡むと剥き出しになる人間の欲や本性

を、タイモンの転落を描きながら毒と皮肉
たっぷりに見せつけるのだ。貸した金を返
すの返さないのと、借金漫画の金字塔『ナ
ニワ金融道』さながらの、えげつなくもシ
ビアな金の話のオンパレードに、シェイク
スピアはリアリストだなあと、妙に感心し
てしまう。

「贅沢三昧していたのがパンクしてどん底に、なんて、バブル崩壊そのものですよね。タイモンが不実な友人たちを“最後の晩餐”に招く場面は一番の見どころです。挙げ句の果てに金を見るのも嫌になったタイモンが“金とは何か”について比喻を尽くして語るところも、そのまま現代に通じますし。副業で金貸しをしている元老院議員も出てきますよ」

お友だちとカネと政治……ううむ、何やらつい最近のわが国をほうふつとさせる既

STORY

アテネの貴族タイモン（吉田鋼太郎）は執事フレヴィアス（横田栄司）の助言、哲学者アペマンタス（藤原竜也）の皮肉を無視し、誰にも気前よく金品を与え、ついに破産。友人たちが自分の金目当てだったことが分かり、すっかり人間不信に陥る。森に引きこもるタイモンは、復讐のためにアテネを滅ぼそうと蜂起した武将アルシバイアディーズ（柿澤勇人）に握り当てた金を与えるが……。

同シリーズ芸術監督・演出・主演、吉田鋼太郎のもとに集う、豪華な顔ぶれにもご注目いただきたい。まず第29弾『ジュリアス・シーザー』（2014年）、レジェンド第2弾『ハムレット』（2015年）にも出演し、俳優としての実力を見せつけた藤原竜也。『海辺のカフカ』初演（2012年）・再演（2014・15年）と蜷川作品に出演し、今回が初のシェイクスピア・シリーズとなる気鋭の若手・柿澤勇人。そしてシリーズではおなじみ、吉田率いる劇団AUNへの客演経験もある横田栄司も名を連ねる。この上ない布陣で挑むシリーズ最新作をお見逃しなく！

視感も。

「そうやって今と繋げて楽しめますよね。大きな劇としてのカタルシスはないですが、先に触れたようにタイモンの呪詛の言葉がまた凄まじいパワフルさに聴きものです。それを鋼太郎さんのセリフで聴けるなんて楽しみですしょう？ ご自身が一度やっていることと、ほぼ誰も知らない作品

なので(笑)、ノビノビと彼の思う世界をつくれるんじゃないかしら。タイモンと毒舌の哲学者アベマンタス(藤原竜也)との憎まれ口合戦も面白いですよ。シェイクスピアって読むと何コレ? と思っても(笑)やると面白い場合が多くて、これはまさにそんな作品ですね」

掘り出し物に出会えそうな予感大だ。

発売日 一般 10.14(土) メンバース 10.9(月・祝)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

12.15(金)～29(金) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作] W.シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[演出] 吉田鋼太郎

[出演] 吉田鋼太郎、藤原竜也、柿澤勇人、横田栄司、

大石 継太、間宮 啓行、谷田 歩、河内 大和 ほか

チケット(税込) 一般 S席9,500円 A席7,500円 B席5,500円

U-25*(B席対象)2,000円／メンバーズ S席8,600円 A席6,800円 B席5,000円

※メンバーズには別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります(9月下旬予定)。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

12. 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

金 土 日 月 火 水 木 金 土 祝 日 月 火 水 木 金

13:30 — ★ ★ 休 ● ● ● ● ● ★ 休 ● ● ● ●

18:30 ● ★ 演 ————— ● ● 演 ————— ●

——長谷川さんは高校時代に『ハロースクール、バイバイ』に参加されたんですね。

長谷川 はい。私の通っていた福島県立いわき総合高校総合学科には演劇学科があって、東京の演劇人の方を呼んで作品をつくる授業があるんです。それで2011年、私たちが2年生の時に来てくださったのが藤田さんでした。

藤田 当初は4月からの予定が、3月に東日本大震災が起こり、開始時期が延期になったんです。確か夏から毎週いわきに通い始め、1回か2回、演劇ワークショップをやった覚えはあるんだけど……そのあと、全部バレーボールの練習に切り替わった(笑)。

長谷川 そうでした(笑)。先生から「私が今もっとも注目している人を東京からお呼びした」という話を聞いていたので、「すごい人が来るんだ、どうしよう」と最初は恐くて。でもあまり歳が変わらない、お兄ちゃんみたいな印象の人が現れて、ホッとしました。

藤田 当時はまだ25、26歳で生徒と10歳ぐらいしか違わないし、いわきは僕の故郷(北海道伊達市)と同じような海の街で、自分の学生時代

を思い出すような本本当にいい時間だったんです。一緒に登校もしたし(笑)。

——藤田さんも登校したんですか？

藤田 高校生の感覚を思い出すために、ちょっと登校したいなと思って。朝の掃除風景や国語の授業を見学したり。でも高校生、めっちゃ朝早いですよ……。

長谷川 信じられないくらい寝起きの顔してて、「もっと寝てればいいのに」って思いました(笑)。

藤田 震災が起きても変わらない生活があることを見て、自分としてはすごく印象的



でした。一緒に弁当食べて、そのあとみんなで散歩したり。この人たち、弁当がつつり食べたあと、大量のかりんとう食べたりするんですけど、僕はさすがにお腹いっぱい食べられない。「あげる」っ

て言われて断ったら、その子が「これ福島でつくられたものじゃないよ」って言ったんです。何がそう言わせてるんだろうとショックだったし、今、福島の子どもたちと演劇をつくっていても、そういう瞬間はいまだにある。それはなんだろうというのは考え続けていますね。『ハロースクール、バイバイ』は最後に海に行くシーンがあるんです。初演は2010年だし、この作品をやることはいわきに来る前年から決めていたので意図はなかったんですが、「意味を持ってしまうかも」と最後まで海のラスト

藤田貴大
Takahiro Fujita

1985年北海道伊達市生まれ。マームとジブシー主宰。演劇作家。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。『かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞、『cocoon』(2015年再演)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。



つくっていた時間全部が作品になる

藤田貴大ワークショップ公演Vol.2 『ハロースクール、バイバイ』

2010年にマームとジブシーで初演、バレーボール部の青春群像劇『ハロースクール、バイバイ』が7月、公募で選ばれた埼玉県の参加者でのニューバージョンとして誕生する。2012年、福島の高校生ともクリエイションされた同作。当時の思い出を、藤田貴大と、同バージョンに参加し現在は『cocoon』をはじめとする藤田作品に出演する長谷川洋子に聞く。

取材・文●川添史子 Photo●宮川舞子

藤田貴大

をやるか悩みました。

長谷川 ホントに、初日直前に挿入したんですね。藤田さんが私たちを集めて聞いてくれて、当時は「いわきだからかな」ぐらいの、大雑把なことしか分かっていなかった気がします。けれども本番で初めていろんなことが見えて、自分たちの近くにある海のことを、すごく考えました。

藤田 僕は海に行かなくてもいいと思っていて。フィクションだろうが「僕が行きたいから行く」は成立しない。そこは慎重でした。「福島の子どもたちのために」とか、子どもをタテにした言い方で演劇をつくるのはくだらないな、そんなの大人のためじゃんって思ってるんですよ。5カ月ぐらい時間をともにしたこの子たちとかかわったのが震災のおかげだとも思ってないし、そのスタンスは貫いたつもりです。彼女た

ちに海の話をする時も「震災があって海って変わっちゃったじゃん」という話をガツンとするのではなく、誰もが共有できる話の中で、それぞれが漠然でもいいから、大切なものを見つけられたらと思っていました。

——藤田さんの故郷の海を描いたセリフが、彼女たちの海になっていくというのは〈演劇〉ですね。

藤田 実は、最初から狙ってそのニュアンスが出ることってあんまりないんです。やっぱりみんなと顔を合わせて、登校して(笑)、海に行って、たどりついたと思う。演劇って、当事者のふりをしてつくり出すような作業をしちゃうじゃないですか。でも大事ななのは、その時にどういう手つき



なかった気持ちや不安、自分が本当に言いたいことを代弁してくれているようで「こういうふうに思っているんだ」と救われた気もします。

——最後に、公演に取り組む

埼玉の参加者に一言いただけますか？

長谷川 自分は本当に楽しんでやったので、とにかく楽しんでほしい。きつと振り返った時、藤田さんとできるってすごい経験だったと思うはずですから。

藤田 この作品は僕自身も、やっていますごく楽しい。みんながセリフを自分の中の鏡にしてくれたら、それだけでも有意義な時間になるんじゃないかと思っています。



マームとジブシー公演(2010年初演) Photo©飯田浩一

チケット発売中

藤田貴大ワークショップ公演Vol.2 『ハロースクール、バイバイ』

7.27(木)開演18:00、28(金)開演18:00

29(土)開演13:30／18:00、30(日)開演13:30

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

[作・演出] 藤田貴大

[出演] 宇田奈々絵、小島優衣、斉藤 暉、西原ひよ、坂井和美、佐久間文子、鶴井美羽、富田夏生、福田真由子、藤井さくら、森田涉吾、山崎和子

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)

一般 2,000円 高校生以下1,500円(要学生証提示)

※開場は開演の20分前です。※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。※開場時間を過ぎますと整理番号は無効となります。※本公演は特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。予めご了承ください。

マームとジブシー『IL MIO TEMPO』10月公演決定!
詳細は財団ホームページ等でお知らせいたします。

長谷川洋子

果てしなく多様化したコンテンポラリー・ダンスに、もはや「正解」はない。人はなぜ踊るのか、という根本から考えなければならない。だがその根本ばかり考えて、コンセプト重視になるあまり、身体ダイナミズムが失われつつあったのが1990年代。その喉笛に、いきなり野獣のように食らいついたのが、イスラエルだったのだ。

精密にして野性的、しかも深い哲学とユーモアと官能性までも備え、小賢しい理屈を蹴散らして、ダンスが人間の本能に直結した芸術だということを再認識させてくれた。コンテンポラリー・ダンスの中心だった西ヨーロッパの国々を、逆に魅了した希有な国がイスラエルなのだ。その中心にそびえる巨大な存在として、いまも変わ

らぬ活躍をしているのがオハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団である。

彩の国さいたま芸術劇場での公演は2012年の『Sadet21ーサデ21』以来5年ぶりとなる（実は1997年の初来日演目の一つを公演した縁の深い劇場なのだ）。今や遅しと待ち続けているファンも多い。

ナハリン作品の魅力は、まずは予想のつかない動きの数々だろう。彼が開発した身体メソッド「GAGA」で鍛えられたダンサーたちは国籍も体型もバラバラ。しかしひとたび動き出すと、もう目が離せない。「ダンスとは振り付けられたステップを踊るもの」と思っている人は、ダンスの概念がひっくり返されるだろう。練り上げられた技術と磨き上げられたセンスが可能にする、新しい次元のダンスの開花である。

このGAGAは、今回の公演に合わせて日本でもワークショップが行われる予定だ。ダンサー用のものとは別に、一般人向けの「GAGAビーブル」もある。イスラエルではラジオ体操がわりに老若男女がやっている、気軽に体験してみよう。

またナハリンの半生を追ったドキュメンタリー映画『Mr.Gaga（邦題：ミスター・ガガ 心と身体を解き放つダンス）』も公開される。若きナハリンが踊る貴重映像満載に加え、ナハリン作品がまとめて見られ、創作の秘密も語られる、ファン垂涎の一般資料だ。中でも今回の『LAST WORKーラスト・ワーク』は、映画の中でもかなりの分量を割いて紹介されている。意味深長なタイトル（ラスト・ワーク＝最後の作品）についても、「そうになってしまう可能性が

常にある状況が、いまの国や世界だ」という。ただもちろんこれが彼の最後の作品というわけではなく、今年の5月に新作を発表しているので、安心してもらいたい。

接触・孤独・絆における新たな解答

筆者はこの『ラスト・ワーク』をテルアビブで見た。

冒頭は、美しい悪夢のように始まる。舞台下手奥で、ダンサーがずっとその場で走っているのだ。筆者が見た時は青いロングドレスを着た若い女性だったが、男性だったり、さまざまなバージョンがあるようだ。ランニングマシンで走る人と同様に、力強い走りではあるが、どこへたどり着くこともない。詮ない努力の象徴にも見

える。しかしそれでも止まることはできないのだ。

ダンサーたちも、ゆっくりねっとり動く。膝を掴んだ腕から肩そして膝がありえないような連携で動く。鉛筆の端を持って振るとグネグネ曲がって見えるように、これも手足がトロけているように見えて不気味である。

群舞ももちろん、独特な「間」とタイミングで、舞台の空気全体が「ふっ」と動くのが、得も言われぬ快感である。しかし一見、静かで平和な舞台上が、どこか歪み、どこかおかしいという違和感が、あちこちに差し込まれてくる。

『サデ21』を見た方は、壁の向こうから女性の悲鳴が響き続ける中、飛びきり素晴らしいダンスが淡々と紡がれる、美しくも不気味なシーンを覚えているだろう。どんなに幸せな時を過ごしていても、世界のどこかでは悲劇が起きているのだということを否応なく突きつけた。

ネタバレで上演の興を削ぐことにならぬように配慮して書くが、『ラスト・ワーク』には従来のナハリンが意図的に避

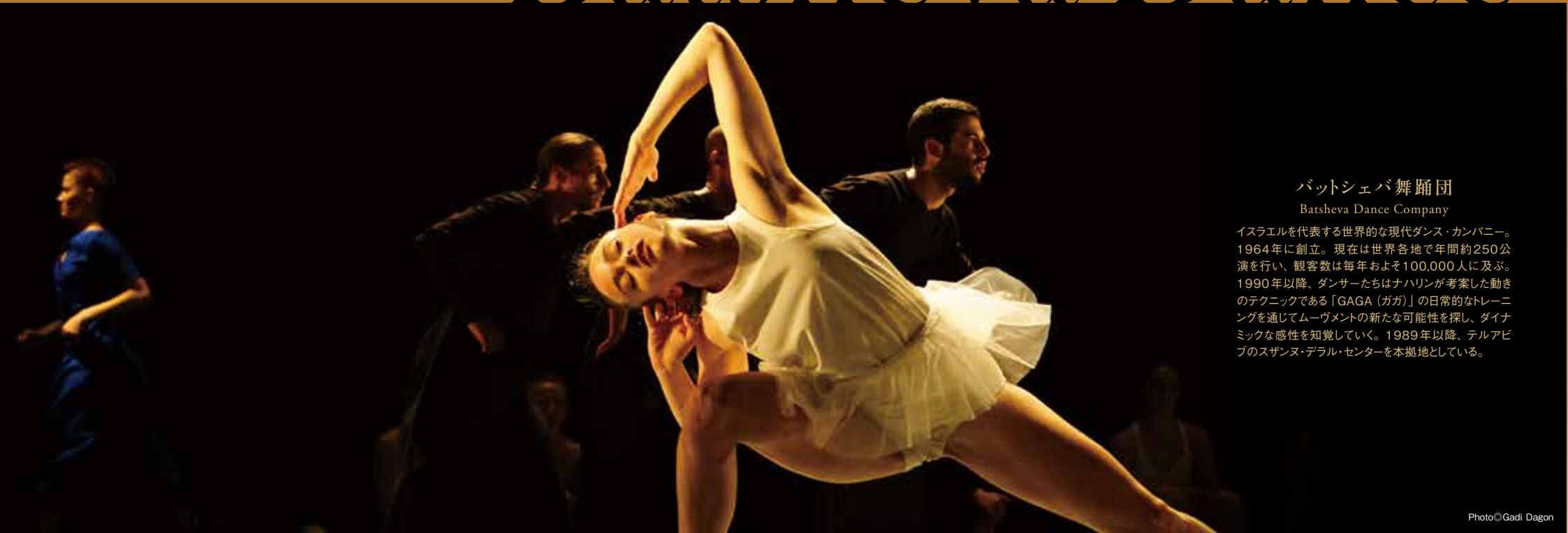
けてきたような要素がいくつか入っている。写真で公開されている範囲でいうと、わりと直接的な表現やアイテムが盛り込まれる、と言っておこう。

10年ほど前、テルアビブの劇場で公演の後、ナハリンは会場にいた海外のディレクターの一人にこんな質問をされた。「あなたの作品ではダンサーたちはほとんど触れ合うことなく、孤独に見えます。なぜそんな作り方をするんですか？」

確かに強く濃厚なコンタクトがコッテリとあるイスラエルのダンス全般からすると、ナハリンの作品は少ない方かもしれない。ナハリンは考えた後、しびれるような回答をしてみせた。

「夜空の星々は互いに触れることはないが、私は彼らを孤独とは思いません」そしてこの接触・孤独・絆という点でも、『ラスト・ワーク』は新しい展開を見せるのだ。

もちろん冒頭に述べたようなダンスの魅力は折り紙つきだ。そこは揺らぐことはない。だがナハリンのアーティストとしての世界が、決して進化を止めず、さらに深まっていることを、ぜひとも体感してほしい。



バットシェバ舞踊団

BatSheva Dance Company

イスラエルを代表する世界的な現代ダンス・カンパニー。1964年に創立。現在は世界各地で年間約250公演を行い、観客数は毎年およそ100,000人に及ぶ。1990年以降、ダンサーたちはナハリンが考案した動きのテクニックである「GAGA（ガガ）」の日常的なトレーニングを通じてムーヴメントの新たな可能性を探し、ダイナミックな感性を知覚していく。1989年以降、テルアビブのスザンヌ・デラル・センターを本拠地としている。

Photo©Gadi Dagon

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン

『LAST WORKーラスト・ワーク』

しなやかで強靱、繊細で鮮やか。

イスラエルのカンパニー、バットシェバ舞踊団が、日本初公開の作品を携えて来日する。

これまでも、その圧倒的な身体性から生まれる迫力あるダンス世界を、

彩の国さいたま芸術劇場の空間に映してくれた彼ら。

オハッド・ナハリンが私たちに投げかける、ひそやかながらも強烈なメッセージは見逃すことができない。

取材・文◎乗越たかお Takao NORIKOSHI（作家・ヤサぐれ舞踊評論家）



Photo©Nero

オハッド・ナハリン

Ohad Naharin

1952年生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、渡米しマーサ・グラハム舞踊団に入団。ジュリアード音楽院でも学ぶ。1980年に振付家としてデビュー。1990年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任、『キール』（1990年）、『マプール（洪水）』（1992年）、『アナフェイス（細胞分裂）』（1993年）など次々に話題作を発表。彼の作品はネザーランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団、パリ・オペラ座バレエ団など、世界中の著名なダンスカンパニーやバレエ団で踊られており、現在、世界でもっとも注目される振付家の一人。

発売日	一般 7.22(土)	メンバーズ 7.15(土)
-----	------------	---------------

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン

『LAST WORKーラスト・ワーク』

10.28(土)・29(日)開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付] オハッド・ナハリン [出演] バットシェバ舞踊団

チケット(税込) 一般 前売S席6,500円 A席4,000円

U-25* 前売S席3,500円 A席2,000円／メンバーズ 前売S席6,000円 A席3,600円

※当日券は各席種とも+500円

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内できない場合がございます。予めご了承ください。

※北九州、愛知、びわ湖公演あり。

※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

【関連企画】

バットシェバ舞踊団ダンサーによる《GAGAワークショップ》

オハッド・ナハリンが自身のリハビリテーションのために考案した「動く喜び」を実感するための運動「GAGA（ガガ）」。バットシェバ舞踊団の動きの源であるこの運動を、同団の現役ダンサー指導のもと体験できる貴重なワークショップです。

10.27(金)17:00 GAGAダンサー(振付家、ダンサー向け)

29(日)17:00 GAGAビーブル(一般向け、スキル・経験不問)

会場:彩の国さいたま芸術劇場

※お申し込み方法など詳細は財団HP・チラシ等をご参照ください。

8年間にわたってオハッド・ナハリンに長期密着した映画が待望の日本公開決定!

『ミスター・ガガ 心と身体を解き放つダンス』

監督:トメル・ハイマン／2015年／100分／提供:アクシー株式会社

ナハリンの振付作品のリハーサルに密着し、貴重な記録映像と息をのむダンスシーンで描かれる話題作。ナハリン独自の世界に肉迫する。サウス・バイ・サウスウエスト映画祭で観客賞、ソフィア国際映画祭では最優秀ドキュメンタリー映画賞を受賞。

【東京】シアター・イメージフォーラム(渋谷) 10.14～

お問合せ: 03-5766-0114

http://www.imageforum.co.jp/theatre/

※名古屋、福岡、京都など全国順次公開予定。



『Mr.Gaga』 Photo©Gadi Dagon

もっと知りたい！ ポジティブ・オルガン

大塚直哉レクチャー・コンサート ポジティブ・オルガン in アンサンブル

パイプオルガンというと、教会やコンサートホールにそびえる巨大な楽器をイメージするかもしれないが、実は、小さな箱型のパイプオルガンもある。ポジティブ・オルガンといい、1段の手鍵盤のみのかわいらしいオルガンだ。彩の国さいたま芸術劇場は2008年から大練習室でポジティブ・オルガンのレクチャーを開催。オルガンを身近に楽しめる人気レクチャーが、この夏、バージョンアップして初めて音楽ホールで行われる。テーマは「アンサンブル楽器としてのポジティブ・オルガン」。当劇場のオルガン事業アドバイザーでありレクチャー・コンサートのオルガン演奏とお話を担当する大塚直哉に話をうかがった。



取材・文 ● 榊原律子

マニアから初心者まで誰もが楽しめる
10年続く人気レクチャー

素朴な音色に心温かくなる小さなパイプオルガン——ポジティブ・オルガン。大塚直哉氏によれば、この楽器を持っているホールは意外に少ないようで、幸いにも所有している当劇場では「光の庭プロムナード・コンサート」や「みんなのオルガン講座」でポジティブ・オルガンをクローズアップしている。そして「みんなのオルガン講座」の1講座として2008年からレクチャーを開催している。「より多くの人にオルガンのファンになっていただくため、また、オルガンと音楽を知的に楽しみたい人のためにレクチャーを始めました。当初は2、3回で終わるつもりだったのですが、トークを挟みながらの演奏は気楽にお楽しみいただけるようで、おかげさまで現在も続いています」

演奏はもちろん、作曲家とオルガンについて、また、当時の町の様子や文化について興味深い話が聴けるレクチャーは、オルガン音楽が大好きな方だけでなく、楽器の構造が気になる人、歴史に興味のある人、初めてオルガンを聴く人、どなたにもお楽しみいただける内容でリピーターも多い。スタートして10年目を迎え、お客様のポジティブ・オルガンへの関心が高まっているのを感じるという。「オルガン公演でアンケートを取ると“有名曲をもっと聴きたかった”という感想が多く寄せられるのですが、彩の国のレクチャーでは“聴いたことのない曲を知りたい”という声が増えてきました。回を重ねるごとに質問も多くなり、嬉しくなりました」



大塚直哉 オルガン
Naoya Otsuka

東京藝術大学大学院チェンバロ専攻、アムステルダム音楽院チェンバロ科およびオルガン科修了。「バッハ・コレギウム・ジャパン」などのアンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍するほか、これらの楽器に初めて触れる人のためのワークショップを全国各地で行なう。現在、東京藝術大学准教授、国立音楽大学非常勤講師。彩の国さいたま芸術劇場のオルガン事業アドバイザー。NHK-FM「古楽の楽しみ」案内役として出演中。公式HP <http://homepage3.nifty.com/utremi/>

チケット発売中

大塚直哉レクチャー・コンサート ポジティブ・オルガン in アンサンブル

8.27(日)開演14:00

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] 大塚直哉(オルガンとお話)、
大西律子、荒木優子(バロック・ヴァイオリン)、
高橋弘治(バロック・チェロ)

チケット(税込) 全席自由 2,000円

音楽ホールで味わうバロック・アンサンブル
普段聞くことのできない演奏の裏話も

ポジティブ・オルガン1台でオルガンの世界を紹介するレクチャーは、昨年夏に初めて他の楽器とのアンサンブルによって開催。「ポジティブ・オルガンは、ソロだけでなくアンサンブルで大活躍する楽器」とのこと、今年の夏は弦楽器とのアンサンブルで「レクチャー・コンサート」をお届けする。イタリアの作曲家G. サンマルティーニ、コレリや、ドイツのJ. S. バッハなど、オルガンが活躍するバロック音楽の珠玉のプログラムだ。「レクチャー・コンサートを聴いたら、次にオルガンの演奏会に出かけたい、というように先につながる催しになればと思っています。この日のレクチャーは、オルガンそのものの話だけでなく、オルガンと共演してくれる弦楽器奏者の人たちにも、調弦をはじめとしてオルガンと合わせるときの苦労話などを聞いたら、と考えています」

会場は、これまでの大練習室に代わり、初めて音楽ホールで行う。「ホールは楽器の一部。響きのよい音楽ホールで演奏すると、ポジティブ・オルガンの楽器としての魅力がこれまで以上に伝わるかもしれません。僕自身も彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールでポジティブ・オルガンを弾くのは今回が初めて。また、今、楽器がとてもいい状態ですので、音楽ホールでどう鳴り響くのか、どうぞお楽しみに！」



Ensemble Wien-Berlin アンサンブル・ウィーン=ベルリン

世界のトップ・オーケストラ 首席奏者たちによる 究極の木管五重奏

世界のトップに君臨するウィーンとベルリンのオーケストラ。その首席奏者が集結したドリーム・チームの木管五重奏団、アンサンブル・ウィーン=ベルリンが2年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場にやってくる。メンバーは、フルートのカール=ハインツ・シュッツ (ウィーン・フィル ソロ・フルート奏者)、オーボエのジョナサン・ケリー (ベルリン・フィル首席奏者)、クラリネットのアンドレアス・オッテンザマー (ベルリン・フィル首席奏者)、ファゴットのリヒャルト・ガラー (ウィーン響首席奏者)、ホルンのシュテファン・ドール (ベルリン・フィル首席奏者)。世界の超一流奏者5人のミラクルな演奏が存分に味わえるプログラムの聴きどころをご紹介します。

文 ● 木幡一誠 (音楽ライター)

チケット発売中

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

9.30(土)開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] カール=ハインツ・シュッツ (フルート)、ジョナサン・ケリー (オーボエ)、
アンドレアス・オッテンザマー (クラリネット)、リヒャルト・ガラー (ファゴット)、シュテファン・ドール (ホルン)
[曲目] ツェムリンスキー：ユモレスク バルトーク：ルーマニア民俗舞曲 BB 68、Sz. 56
ヒンデミット：小室内音楽 作品24-2 リゲティ：6つのバガテル ドビュッシー：子供の領分
フランス：木管五重奏曲 第1番 ベリオ：オーバス・ナンバー・ズー (作品番号獣番)

チケット(税込) 全席指定 一般 5,000円/U-25* 2,500円/メンバーズ 4,500円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

木管五重奏の魅力を味わい尽くす選曲
「ウィーンとベルリン」ならではのプログラム

名人芸を惜しげなく披露しながら、その音楽作りは隅々まで協調性に富む。さすがに世界のトップ・オーケストラで活躍する5人だ。木管五重奏の可能性を最大限に引き出すプログラムは充実の極み。各作品の間にさりげなく張り巡らせたリンクも隠し味として効いている。ウィーン生まれのツェムリンスキーに、ベルリンの街とゆかりの深かったヒンデミット。前者の《ユモレスク》が、いわゆる世紀末の空気を懐かしむような心情に浸っているとすれば、後者の《小室内音楽》には、20世紀初頭における“新たなドイツ音楽”の秩序を探索する気鋭の作曲家のシルエットが刻印されている。この対比感が音楽的にも面白い。

以上の2人がドイツ語圏の出身なのに対して、バルトークとリゲティはハンガリーの作曲家だ。ともに自国および近隣地域の民俗音楽に素材を求めながらも、バルトークはエキゾチックな香りを濃厚に漂わせ、リゲティは鋭い不協和音や複雑な変化を伴うリズムが耳をとらえる。その作風の違いはつまり、彼らが生きた時代の息吹の反映に他ならない。ドナウ川も流れるハンガリーの大地が、かつてはオーストリア=ハンガリー帝国の一部として、ウィーンの文化風土と深く交わっていたことに思いをはせるのも一興だろう(ちなみにクラリネットのアンドレアス・オッテンザマーはウィーン生まれだが、母親から受け継いだハンガリーの血を本人も強く意識している由)。

動物が主人公の詩を演奏しながら語る
《オーバス・ナンバー・ズー》とは？

色彩感の豊かなフランス音楽には管楽器の響きがよく似合う。ドビュッシーが愛娘に捧げたピアノ曲《子供の領分》が描き出す、オトナの目に映った“小さきものの世界”も、印象派の絵画に通じるカラフルなタッチで染め上げてくれるはずだ。そしてフランスの「第1番」は、古今東西の木管五重奏曲でも指折りの傑作にして難曲。5人のプレイヤーが超絶技巧を競い合う過程が、そのままパリの街角の光景を連想させるお洒落な雰囲気醸し出す。そこを行き交う雑踏のにぎわいや、老若男女が交わす会話の随所を彩るユーモアや喜怒哀楽の念や、ときには辛辣な皮肉まで音で再現するがごとく……。

そして最後を飾るベリオは、20世紀後半の音楽界を牽引したイタリアの大家だ。彼の《オーバス・ナンバー・ズー》では、動物を主人公とする寓話的な詩を演奏者が語りとして受け持つ。子供でも楽しめるユーモラスな作品だが、昨今の世界情勢に通じる社会批判的なメッセージまで、その背後には秘められている。

という具合に、贅沢なまでの娯楽性、そして音楽的な見識と知性に満ちたステージは、まさにこのアンサンブルの魅力全開。聴き逃したら一生の損ですよ！

クラシックは弾く音が決まっている
ゆえに実はジャズより即興性が深い

「今から14年前、尾高（忠明）さん指揮の札幌交響楽団の定期でガーシュウインの《ラプソディー・イン・ブルー》を弾くものだと思って受けたら、蓋をあけたらモーツァルトだったんですよ（笑）」

ジャズ・ピアニストとオーケストラの共演は、ガーシュウイン以外の演目では未だ

珍しいのが現状だ。にも関わらず、名実ともに日本を代表するジャズ・ピアニスト小曾根真は2003年以来、少しずつレパトリーを広げながらオーケストラと頻繁に共演を重ねている。10月7日にはNHK交響楽団と共に埼玉会館のリニューアル・オープン記念事業に出演も予定される。ジャズを演奏する時間を削ってまで取り組むようになった理由はどこにあるのか。「クラシックの音楽というのは弾く音が

決まっているわけで、それがつまらないと思っていたんです。だけど、そうじゃなかった。なぜなら弾く音を与えられている分、表現範囲が広がるんです。だから本当に自分と向き合わないといけない。その瞬間にどういう音を出して、どう生きるかという即興性って、クラシックの方が実は深いって思っちゃったんです」
しかし演奏を重ねて、少しずつクラシックのことが分かるようになると、今度は怖

さも感じるようになっていったのだという。そんな恐怖や不安を乗り越えるきっかけとなったのは、友人からの一言にあった。「2006年に宮崎国際音楽祭で指揮者のデュトワさんと、モーツァルトの《ジュノム》（ピアノ協奏曲第9番）を演奏したんですね。そしたら友人のピアニスト清水和音が『観たよ〜、テレビで宮崎の。だったらめなモーツァルト弾いてたね』って言うんですよ（笑）。でも『デタラメだけど、すごい良かったよ！』って言われて、やっぱりこれでいいんじゃないと思ったんです。僕のクラシックは、ちゃんと勉強してきた人に言わせると全然正しくないのかもしれない。だけど生理的には正しいんです。何故なら、自分がこうしか感じられないっていうものをそのまま出すわけだからね。逆に僕が真面目にモーツァルトを弾こうとすると『違うでしょ！』って、モーツァルトが言ってくるんです（笑）」

クラシックの魅力に気づいた作品
それがプロコフィエフ

今ではクラシックへの思いを熱弁する小曾根だが、そもそも彼が魅力に気付いたのは1983年のこと。デビューアルバムに活かすべく、クラシックを聴こうとした際に友人から薦められて最初に出会ったのがプロコフィエフのピアノ協奏曲第3番だった。「こんな音楽があるんだって、僕はとにかくノックアウトされたんです。それからクラシックに興味を持つようになりました。第3楽章途中の美しいメロディのところなんか、リピートしてもう1回全部弾きたいぐらい。あそこは何度弾いても涙がでえます」
小曾根にとって最愛の作品のひとつであり、小曾根が手がける楽曲の原点でもあるこのプロコフィエフの協奏曲第3番を、10月7日の公演では披露してくれる。演奏する作品によっては、アドリブを加える場合

もあるのだが、今回はどのように取り組むのか。「この作品については音を変えないのですが、リズム・フェチのジャズ屋じゃないとできない弾き方があって、それを第3楽章でちょっとやったりするんです。実はこの間、サンフランシスコ交響楽団でその弾き方をやったら『You're swinging!』（スウィングしてるね！）って言われて（笑）、さすがアメリカ人だから分かったんですね。弾いているのはあくまで4分音符なんですけど、その感じ方をちょっと揺すってみるんです。音を変えるのではなく、リズムのとり方を変える。例えば、同じ（少し前のめりに）『今日どこに行ってたの！？』と（落ち着いた口ぶりで）『今日、どこ行ってたの……？』では全然違いますよね。これを音楽でやればいいだけの話なんです。いま鳴っている音に対して、こういう反応を返していくのがジャズ屋なんです」

音浴——音楽はからだ全体で聴くもの
波動を聴きにきてほしい

スウィングなプロコフィエフと聴いただけで期待に胸が高鳴るばかり。とはいえ、そもそも「クラシックは高尚で苦手」という人も多いであろう。小曾根はそう感じている人にこそ、今回のコンサートに来てほしいのだという。「僕がいつも言っているのは『音浴』ということなんです。音は耳で聴くんじゃない。からだ全体の毛穴と耳で聴くんですよ。とにかくその波動を聴きにきてほしい。そして、分かってない人ほど来てほしいんです。『私はクラシックが分からない』っていう人ほど、こういう本物のオーケストラの演奏を聴いてほしい。そうすると『分からなくていい』ってことが分かります。なぜなら、『何でこんなところで涙が出るの？』『鳥肌がたつの？』『失恋を思い出すの？』……それでいいんですよ、音楽ってね」

チケット発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業

NHK交響楽団 リオ・クオクマン（指揮） 小曾根 真（ピアノ）

10.7（土）開演16:00 埼玉会館 大ホール

〔曲目〕 グリンカ：歌劇《ルスランとリュドミラ》より序曲
プロコフィエフ：ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 作品26
ドヴォルジャーク：交響曲第8番 ト長調 作品88

チケット（税込） 一般 S席 6,500円 A席 5,500円 B席 4,500円
U-25*（B席対象）2,000円／メンバーズ S席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



小曾根 真（ピアノ）
Makoto Ozono

1983年パークリー音楽大学を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、全世界デビュー。以来、ゲイリー・パートン、ブランフォード・マルサリス、チック・コリア等、世界的ジャズミュージシャンや、自身が率いるビッグ・バンド'No Name Horses'とのツアーなど、最先端のジャズシーンで活躍。また、クラシックにも取り組み、国内外の主要オーケストラと共演。最近では、ニューヨーク・フィル、サンフランシスコ響に招かれ高い評価を得るなど、ジャンルを超えて幅広い活動が続けている。
<http://makotoozono.com/>



リオ・クオクマン（指揮）
Lio Kuokman

2015/16年シーズンまでフィラデルフィア管の副指揮者を務め、現在同団のアジア常任指揮者。ラトルやティルソン・トーマスらのマスタークラスに参加し、2014年のスヴェトラノフ国際指揮者コンクールで最高位。フィラデルフィア管のほか、フランス国立放送フィル、ソウル・フィル、デトロイト響、デンマーク国立響、シンフォニア・ヴァルソヴィアなどに客演し、オペラではマリインスキー劇場などで《フィガロの結婚》や《カルメン》《トゥーランドット》などを指揮している。ピアニストとしても活躍している。



NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

1926年に新交響楽団として結成され、日本交響楽団の名称を経て、1951年NHK交響楽団と改称。世界一流の指揮者を次々と招聘し、歴史的な名演を残している。現在、年間54回の定期公演に加え、全国で約120回の演奏活動を実施。定期的な海外公演など、その活動ぶりと演奏は国際的にも高い評価を得ている。指揮者陣は、首席指揮者P・ヤルヴィ、名誉音楽監督C・デュトワ、桂冠名誉指揮者H・プロムシュテット、桂冠指揮者V・アシュケナージ、名誉客演指揮者A・ブレグヴィン、正指揮者外山雄三、尾高忠明。



Review

レビュー

PLAY

GEKISHA NINAGAWA STUDIO

『2017・待つ』

4.27(木)～30(日)／5.11(木)～14(日)

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

かつて、蛭川幸雄率いる「GEKISHA NINAGAWA STUDIO」に所属し、演劇と格闘してきた者たちが〈僕たちの再戦〉というキャッチコピーを掲げて挑んだ舞台。シェイクスピアやアラバール、清水邦夫や前田司郎と、古今東西、かつて劇団公演やエチュード発表で行われた作品や、俳優たちがいつかやりたいと温めていた計7本のオムニバスで構成された。繊細なセリフまわしで紡ぎ出す叙情、高い集中力で生まれる迫力と、蛭川のもとで修行を積んで来た俳優たちの、確かな演技を堪能した。色彩豊かで大胆な装置、詩情ある照明と音楽。もう新作が観ることができない演出家を、しばし思い出し、偲ぶ機会となった。



Photo©宮川舞子

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第10回

山崎伸子 チェロ・リサイタル

5.13(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

ベートーヴェンのソナタ第3番で始まったリサイタル。「やはりこの名曲を次代に伝えなければ」との思いが伝わってくるかのよう、最初の1音から深く温かく喜びに満ちた響きで、どこまでもみずみずしい。ピアノの加藤洋之とも息の合った見事な対話を聴かせた。マルティヌーのソナタ第1番は、山崎の師フルニエへの思いに満ちたエネルギッシュな演奏。武満徹《オリオン》は水紋のように音が繊細に広がる美しい演奏で、ショパンのソナタはロマンと情熱に満ち、ピアノも鮮やかに聴かせた。終演後のアフターコンサート・トークでは山崎、加藤共に登壇し、今回のプログラムへの思いや、ピアノとの共演の極意について語った。



Photo©加藤英弘

DANCE

コンドルズ埼玉公演2017新作

『17's MAP』

5.20(土)・21(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

昨年、記念すべき10作目を迎えたコンドルズの、新たな歴史のスタートとなる埼玉新作11作目。尾崎豊の名曲「十七歳の地図」をキーに、〈大人たちが繰り広げる思春期〉のようなダンスが炸裂。トレードマークの学ランが、ここまでハマる作品もなかっただろう。圧倒的な存在感で据えられた巨大な壁は、若者の前に立ちただかる障害に見えたり、世界を分断する壁に見えたりと、想像力を膨らませる。カーテンコールでこの壁にはドアがあり、あっさり抜けられることが判明。人生と国境の壁は、ユーモアで軽やかに乗り越えられるかもしれない……。既成概念を覆してきたコンドルズらしいフィナーレだった。



Photo©HARU

DANCE

Noism1

新作『Liebestod－愛の死』／レパートリー『Painted Desert』

6.2(金)～4(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

Noism率いる金森穂の最新作『Liebestod－愛の死』と、Noism2専属振付家・山田勇気の代表作で上演を重ねる『Painted Desert』を、ダブルビルで上演。『Liebestod－愛の死』は、18歳のころから金森を虜にし続けてきたワーグナーの楽曲《トリスタンとイゾルデ》をもとに、25年の歳月を経てついに舞台化したもの。波打つ黄金の幕の前でエネルギッシュに舞い、生命力あふれる井関佐和子の踊る姿は感動的。打って変わって真っ白い空間での『Painted Desert』は、精緻で儂く、幻想的な世界が立ち現れた。高い技術力による繊細かつ強靱な舞台は、このカンパニーの積み上げてきた成果を見せつけた。



Photo©篠山紀信

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.7

上原彩子 ピアノ・リサイタル

6.10(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

7年ぶりの登場となった上原彩子は幻想曲づくりのプログラムを披露。前半1曲目のモーツァルトは、続くシューマンのまるで前奏のようにロマンティックに演奏。そのシューマンは、上原ならではのダイナミックな響き強い印象を残すと同時に、夢見のような繊細な弱音でシューマンの詩的な味わいをより深くした。後半のモーツァルトは、前半1曲目とは明らかに異なる演奏スタイルで、上原のプログラム構成の妙も感じさせる。その後のリストは、華美だけでなく、格調高くドラマティックな演奏を聴かせた。アンコール最後、上原自身の編曲による〈花のワルツ〉は圧倒的な超絶技巧で、客席を大いに沸かせた。



Photo©加藤英弘

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第31回

NHK交響楽団メンバーによる木管三重奏

「トリオ・サンクアンシュ」

6.20(火) 埼玉会館 大ホール

お昼どきに本格的な音楽を気軽に楽しむ、好評の埼玉会館ランチタイム・コンサートが、1年半の休館を経て再開。アンサンブル名の「サンクアンシュ」は「5枚のリード」の意。オーボエ、クラリネット、ファゴットが織りなす表情豊かなハーモニーが聴衆を包み込んだ。バッハ《シンフォニア》、モーツァルト《ディヴェルティメント》で爽やかに始まったコンサートは、軽妙なトークを挟みながらシャンソンの雰囲気漂うブーランクの世界に。この編成のために書かれたオーリック作品で締めくくられた本編のあと、最後はアンコール「あめふりくまのこ」。この季節らしい、可愛らしい選曲にくつろいだ空気が客席に広がった。



Photo©加藤英弘

PLAY MUSIC EVENT CINEMA

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場
お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

7.30(日) マームとジプシー『10th Anniversary Tour』
Ⅰ『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ』
Ⅱ『AAA かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと―――』
Ⅲ『夜、さよなら 夜が明けないまま、朝 Kと真夜中のほとりて』
Ⅳ『あっこのはなし』

小ホール
7.15(土) 18:00 Ⅱ 26(水) 19:30 Ⅰ
16(日) 18:00 Ⅱ 27(木) 15:00 Ⅱ
17(月・祝) 14:00 Ⅱ 28(金) 19:30 Ⅲ
21(金) 19:30 Ⅲ 29(土) 13:00 Ⅲ／18:00 Ⅱ
22(土) 18:00 Ⅲ 30(日) 14:00 Ⅰ
23(日) 18:00 Ⅳ 詳細はP.21
24(月) 19:30 Ⅳ

7.29(土) 蜷川幸雄一周忌追悼公演
『NINAGAWA・マクベス』

大ホール
7.15(土) 13:00／18:00 23(日) 13:00
16(日) 13:00 24(月) 13:00
17(月・祝) 13:00 25(火) 休演
18(火) 休演 26(水) 13:00／18:00
19(水) 13:00 27(木) 13:00
20(木) 13:00 28(金) 13:00／18:00
21(金) 13:00 29(土) 13:00
22(土) 13:00／18:00 詳細はP.21

7.27(木) 藤田貴大ワークショップ公演Vol.2
『ハロースクール、バイバイ』

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)
7.27(木) 18:00
28(金) 18:00
29(土) 13:30／18:00
30(日) 13:30 詳細はP.10-11

7.28(金) 平成29年度公文協東コース
松竹大歌舞伎

中村橋之助改め八代目中村芝翫 襲名披露
中村国生改め四代目中村橋之助 襲名披露
中村宗生改め三代目中村福之助 襲名披露
熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール
昼の部 12:30 / 夜の部 17:00 ※予定枚数終了しました。

8.3(木) バンクパベッツ 4歳以上
『Mr.バンクの魔法のガラクタ
～石・棒・折れた骨 Sticks Stones Broken Bones』

小ホール
3(木) 11:00／15:00、4(金) 11:00 詳細はP.21

9.21(木) さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』

彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)
9.21(木) 18:00 27(水) 14:00
22(金) 18:00 28(木) 14:00
23(土・祝) 14:00 29(金) 18:00
24(日) 14:00 30(土) 14:00
25(月) 休演 10.1(日) 14:00
26(火) 14:00 詳細はP.4-5

MUSIC

7.29(土) 埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド! 4歳以上
埼玉会館 大ホール 開演14:00(休憩有り) 詳細はP.22

8.5(土) 光の庭プロムナード・コンサート第94回
夏休みスペシャル
星☆ダンス ～オルガンと歌って踊ろう!～
情報プラザ 開演14:00 ※入場無料
[出演] 中田恵子(オルガン)、石橋輝樹(フルート／バロック・フルート)
[曲目] J. ヴィリアムズ: スター・ウォーズ
モーツァルト: きらきら星変奏曲 星野 源: 恋 ほか

8.26(土) ピアノデュオ ドゥオール デュオ・セミナー 創造の4日間
in 彩の国さいたま芸術劇場 修了コンサート
音楽ホール 開演15:00
[出演] セミナー受講生、ピアノデュオ ドゥオール(藤井隆史&白水芳枝)
[チケット](当日受付) 大人1,500円／学生(高校生以上)1,000円／
小中学生500円／親子ペア券1,500円
※中学生以上の学生は要学生証提示。 ※未就学児でも静かにお聴きいただける方は入場可能。
※8.23(水)～25(金)レッスン聴講可能(有料)。
聴講・コンサートの詳細はドゥオールセミナーホームページ
http://www.yoshie-takashii.com/seminar.html

8.27(日) 大塚直哉レクチャー・コンサート
ポジティブ・オルガン in アンサンブル
音楽ホール 開演14:00 詳細はP.14

9.16(土) 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第11回
吉野直子 ハーブ・リサイタル
音楽ホール 開演14:00 詳細はP.22

9.22(金) 埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ランチタイム・コンサート第32回
ウェールズ弦楽四重奏団
埼玉会館 大ホール 開演12:10(終了予定13:00) 詳細はP.22

9.30(土) アンサンブル・ウィーン＝ベルリン
音楽ホール 開演15:00 詳細はP.15

…彩の国さいたま芸術劇場 休館日 …埼玉会館 休館日

7							8							9						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
						1				1	2	3	4	5					1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
30	31																			

EVENT

9.21(木) 《世界ゴールド祭》キックオフ!
-24(日) 小ホール 詳細はP.6-7

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
【全席自由・各回入替制・整理券制】
大人1,000円／学生500円[入場時に学生証をご提示ください]
※料金は当日現金支払いのみ
※「優秀映画鑑賞推進事業」は大人・学生とも1作品500円

8.10(木)～13(日) 映像ホール
優秀映画鑑賞推進事業(特別協賛 木下グループ)
[A]『煙突の見える場所』
(1953年／新東宝＝スタジオ8プロ／108分)
[監督]五所平之助 [出演]田中絹代、上原 謙、高峰秀子 ほか
[B]『この広い空のどこかに』(1954年／松竹／109分)
[監督]小林正樹 [出演]佐田啓二、久我美子、高峰秀子 ほか
[C]『名もなく貧しく美しく』(1961年／東京映画／128分)
[監督]松山善三 [出演]高峰秀子、小林桂樹、島津雅彦 ほか
[D]『裸の島』(1960年／近代映画協会／96分)
[監督]新藤兼人 [出演]乙羽信子、殿山泰司、田中伸二 ほか
10(木) 10:30[D]／14:00[A]／17:30[B]
11(金・祝) 10:30[C]／14:00[B]／17:30[A]
12(土) 10:30[A]／14:00[D]／17:30[C]
13(日) 10:30[B]／14:00[C]／17:30[D]



『煙突の見える場所』©1953 新東宝

8.23(水)～27(日) 映像ホール
『ヒトラーの忘れもの』(2015年／デンマーク・ドイツ／101分)
[監督・脚本]マーチン・サントフリート
[出演]ローラン・ムラ、ミゲル・ボネー・フルスゴー、ルイス・ホフマン ほか
23(水)～26(土) 10:30／14:00／18:00
27(日) 10:30／14:00



©2015 NORDISK FILM PRODUCTION A/S & AMUSEMENT PARK FILM GMBH & ZDF

9.7(木) 8(金) 埼玉会館小ホール
埼玉が生んだ女優 三宅邦子
～小津安二郎監督作品選～
『麥秋』(1951年／日本／124分)
[監督]小津安二郎
[出演]笠 智衆、原 節子、淡島千景 ほか
9.7(木)・8(金) 10:30／14:00



『麥秋』©1951 松竹株式会社

9.21(木)～24(日) 映像ホール
『人生フルーツ』(2016年／日本／91分)
[監督]伏原健之 [出演]津端修一、津端英子 ほか
[ナレーション]樹木希林
21(木)～23(土) 10:30／14:00／18:00
24(日) 10:30／14:00 ※23(土)10:30音声ガイドあり



©東海テレビ放送

PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

発売中

マームとジプシー
『10th Anniversary Tour』

Ⅰ『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ』
Ⅱ『AAA かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと―――』
Ⅲ『夜、さよなら 夜が明けないまま、朝 Kと真夜中のほとりて』
Ⅳ『あっこのはなし』

7.7(金)～30(日) 小ホール
[作・演出]藤田貴大
[出演]石井亮介、伊野香織、荻原 綾、小椋史子、尾野島慎太郎、
川崎ゆり子、斎藤章子、中島広隆、成田亜佑美、波佐谷 聡、
長谷川洋子、船津健太、沼田実子、吉田聡子／山本達久
チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
1作品(Ⅰ Ⅱ Ⅲ) 一般4,000円 メンバーズ3,500円
(Ⅳ) 一般3,000円 メンバーズ2,700円
※当日券は各500円増
4作品セット券(枚数限定・前売のみ)
一般13,500円 メンバーズ12,000円
各日開演時間はP.20

発売中

蜷川幸雄一周忌追悼公演
『NINAGAWA・マクベス』

7.13(木)～29(土) 大ホール
[演出]蜷川幸雄 [作]W.シェイクスピア [翻訳]小田島雄志
[出演]市村正親、田中裕子、辻 萬長、大石継太、嵯川哲朗 ほか
チケット(税込)
一般 S席12,000円 A席9,000円
U-25* (前売のみ取扱・当日引換券) 6,000円
各日開演時間はP.20

発売中

藤田貴大ワークショップ公演Vol.2
『ハロースクール、バイバイ』

詳細はP.10-11

発売中

バンクパベッツ
『Mr.バンクの魔法のガラクタ
～石・棒・折れた骨 Sticks Stones Broken Bones』 4歳以上

8.3(木) 11:00／15:00 4(金) 11:00 小ホール
[作・演出]ジェフ・アクテム [出演]ティム・シュネドン
チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
大人2,000円 子ども(4歳以上中学生以下)1,000円

発売中

さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』

詳細はP.4-5

発売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
立川志らくと精鋭若手落語会
10.28(土) 14:00 小ホール

[出演]立川志らく(ゲスト)、立川こしら、
立川志ら乃、古今亭駒次
チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円
メンバーズ2,700円

発売日 一般 10.14(土) メンバーズ 10.9(月・祝)
※メンバーズプレオーダー(抽選)があります。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

詳細はP.8-9

DANCE

発売日 一般 7.22(土) メンバーズ 7.15(土)

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK-ラスト・ワーク』

詳細はP.12-13

発売日 一般・メンバーズ 9.2(土)

川口隆夫
『大野一雄について』

12.2(土)・3(日) 15:00 小ホール

[出演]川口隆夫
チケット(税込) 全席自由
一般 前売3,000円 当日3,500円
U-25* 前売2,500円 当日3,000円
[主催]NPO法人ダンスアーカイヴ構想
[共催]公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団／有限会社かんた
※ほか、関連プログラムあり

次頁へ続く

Tickets チケット

MUSIC

発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド！🎵 4歳以上

7.29(土)14:00 埼玉会館 大ホール
【出演】飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)
西本裕矢(ピアノ/ 第70回全日本学生音楽コンクール全国大会中学校の部第2位)
東京交響楽団(管弦楽)
【曲目】チャイコフスキー：《眠りの森の美女》組曲より〈ワルツ〉
小室昌広：ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
ラフマニノフ：《ピアノ協奏曲第2番》より第3楽章(ピアノ=西本裕矢)
【指揮者にチャレンジ!】
ビゼー：歌劇《カルメン》より 前奏曲より
【みんなで歌おう&演奏しよう】
久石 譲：映画『となりのトトロ』より〈となりのトトロ〉
カバレフスキー：組曲《道化師》
チケット(税込)
S席 大人4,000円 子ども(4歳以上中学生以下)2,000円
A席 大人3,500円 子ども(4歳以上中学生以下)1,500円
メンバーズ S席 大人3,600円 A席 大人3,200円

発売中

大塚直哉レクチャー・コンサート
ポジティブ・オルガン in アンサンブル
🎵 詳細はP.14

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第11回
吉野直子 ハープ・リサイタル
9.16(土)14:00 音楽ホール
【出演】吉野直子(ハープ)
【曲目】
J. S. バッハ(オーウェンス/吉野直子編曲)：シャコンヌ
ブラームス：4つのバラード 作品118-2
フォーレ：塔の中の王妃 作品110
クセネク：ハープのためのソナタ 作品150
武満 徹：スタンザⅡ ～ハープとテープのための～
吉松 隆：ライラ小景(2006)
ルニエ：ピエス・サンフォニック
チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円
メンバーズ 正面席3,600円

【公演関連プログラム】
『コンサートがより楽しめる！
はじめて出会うハープの魅力』(要事前申込)
8.6(日)14:00～ 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
お話：吉野直子 進行：オヤマダアツシ(音楽ライター)
※詳細は財団ホームページをご覧ください。

発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ランチタイム・コンサート第32回
ウェールズ弦楽四重奏団
9.22(金)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
【出演】崎谷直人(ヴァイオリン)、三原久遠(ヴァイオリン)、
横溝耕一(ヴィオラ)、富岡廉太郎(チェロ)
【曲目】ハイドン：弦楽四重奏曲 第41番 ト長調 作品33-5
シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 二短調「死と乙女」
D 810より 第1、2、4楽章
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売中

アンサンブル・ウィーン=ベルリン
🎵 詳細はP.15

発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
NHK交響楽団
リオ・クオクマン(指揮) 小曽根 真(ピアノ)
🎵 詳細はP.16-17

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.32
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル
11.11(土)15:00 音楽ホール
【曲目】ショパン：マズルカ 作品56
ブラームス：4つのバラード 作品10
ショパン：ソナタ 第2番 変ロ短調 作品35
ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円
メンバーズ 正面席3,200円
※バルコニー・U-25残席僅少

発売中

レオニダス・カヴァコス
ヴァイオリン・リサイタル
11.19(日)15:00 音楽ホール
【出演】レオニダス・カヴァコス(ヴァイオリン)、
エンリコ・バーチェ(ピアノ)
【曲目】ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ
シューベルト：ヴァイオリンとピアノのための幻想曲 Ⅱ長調 D 934
メシアン：主題と変奏
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96
チケット(税込)
一般 正面席7,000円 バルコニー席6,000円
U-25*(バルコニー席対象)3,000円
メンバーズ 正面席6,300円

発売日 一般 8.5(土) メンバーズ 7.29(土)

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 フルート・リサイタル
12.17(日)15:00 音楽ホール
【出演】工藤重典(フルート)、長崎麻里香(ピアノ)
【曲目】ベートーヴェン(ドゥルーエ編曲)：ソナタト長調 作品30-3
フランク：ソナタイ長調 ほか
チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円
メンバーズ 正面席3,600円
※12月16日(土)関連プログラムあり(要事前申込み)
詳細は財団ホームページをご覧ください。

発売日 一般 8.5(土) メンバーズ 7.29(土)

ピアノ・エトワール・シリーズVol.33
バヴェル・コレスニコフ
ピアノ・リサイタル
2018年 1.27(土)15:00 音楽ホール
【曲目】シューマン：ヴィーンの謝肉祭の道化
シューベルト：ソナタ イ短調 D 537
ショパン：幻想曲 へ短調 作品49 ほか
チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円
メンバーズ 正面席3,200円

発売日 一般 9.17(日) メンバーズ 9.16(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回
ニューイヤー・スペシャル
日本音楽集団
2018年 1.11(木)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
【曲目】宮城道雄：春の海
フランス音楽メドレー ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

TICKET

インターネット

SAF オンラインチケット
で、発売初日10:00から
公演前日23:59まで
受付いたします。

【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】
※チケット代の他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939
10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後に宅配便での配送も承りますが、チケット代のほかに配送料
(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)
で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取
もできます。 ※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】
一般 一般 【現金】または
【クレジットカード決済】

その場で
チケットを
お渡します。
※手数料は
かかりません。

INFORMATION

蜷川幸雄氏一周忌、メモリアルプレート・ショーケース設置



2006年より彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督をつとめ、昨年5月12日に80歳で亡くなった
蜷川幸雄氏の功績をたたえ同劇場内NINAGAWA STUDIO（大稽古場）前にメモリアルプレート・
ショーケースが設置された。

プレートの材質はセラミックとブロンズ、サイズは縦80センチ、横75センチ。遺影とともに、「最後
まで、枯れずに、過剰で、創造する仕事に冒険的に挑む、疾走するジジイであり続けたい」(PHP研究
所「演劇ほど面白いものはない 非日常の世界へ」より引用)という本人の言葉が記されている。プレ
ートの側には、台本、ノート、小さなオブジェといった、演出家ゆかりの品々も展示中だ。妻の宏子さんが
「(蜷川氏の演出スタイルのように)鉛筆までとんがっている」と語る、蜷川氏が自分で削っていたとい
う鉛筆も展示している。

常設展示 9:00～22:00(休館日を除く)

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2017.6.25現在／一部未掲載)

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター
(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)
東芝エルティエーエンジニアリング(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明(株)
埼玉スバル／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／不動開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国 S P グループ
(有)ブラネッツ／関東自動車(株)／(株)デサン／セントラル自動車技研(株)／丸美屋食品工業(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)
公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)埼玉交通／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)
(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(一財)さいたま住宅検査センター／(株)国大グループホールディングス
(株)NEWSエンターテインメント／オーガスアリーナ(株)／イープラス／六三四堂印刷(株)／(医)櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山崎整形外科
サンケイリビング新聞社／(株)三和広告社／(株)セノ／ショッパー／(株)松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／(株)川口自動車交通
(株)ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／(有)杉田電機／丸茂電機(株)／太平ビルサービス(株)さいたま支店／(株)片岡食品／(株)協栄
(株)ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／チャコット(株)／(株)平和自動車／光陽オリエントジャパン(株)／さくらMusic Office
クワバラ・パンぶキン／駒橋内科医院／東和アークス(株)／テレビ埼玉／日本ビストンリング(株)／金井大道具(株)／国立大学法人 埼玉大学
(株)七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社)埼玉県経営者協会／(株)コマーム／(株)原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫
(株)和幸楽器／淑徳与野中学・高等学校／新日本ハウス(株)／埼玉栄中学・高等学校／大栄不動産(株)／相川宗一／(株)ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校
三井隆司／大和証券(株)／AGS(株)／(株)ジャスト／(株)ワイイーシーソリューションズ／白神久吉



画 ● 磯 良一

麻雀ばかりがうまくなる

文 ● 岩松 了

私が乗るバスには老人客が多い。老人には、元気な人もいれば、そうでない人もいる。総じて女性の方が元気がいい。連れがいる場合はあたりをはばかりことなくおしゃべりに興じている。そのおしゃべりは私にしてみればすれ違いざまの言葉で、彼らの人生の途中を垣間見ているのだと言えるかもしれない。おしゃべりは、病気の話、家族の話など様々だが、先日こんな言葉が飛び込んできた。お婆さんの声だ。
「麻雀ばかりがうまくなる」

思わず声の主を振り向いてしまった。年金暮らし。暇を持て余している。麻雀をやる。それも毎日のように。その流れだ。昔観た中国映画で女性たちが昼間から麻雀やってるシーンがあったのを思い出した。その女性たちはみんなお金持ちだった。このバスの中の二人の老婆もお金持ちのような気がしてきた。と同時に、その言い回しに何か聞き覚えがあるような気がした。何だろう？ 「麻雀ばかりがうまくなる」。やがて気がついた。あれだ！ S.ベケットの『勝負の終わり』。

この戯曲は、クロヴという使用人に身の世話をさせながら車椅子で苛立ちの日々を送るハムの話だ。その部屋にはドラム缶が二つあり、老いたハムの両親は各々の中にいる。二人はすでに互いの存在をボンヤリとしか確認できない。父親は妻にそれまで何度もした自慢の笑い話をしてあげる。が、途中で話してることに白け、こうつぶやくのだ。「同じ話がだんだんへたになる」。

頭の中でこの二つのセリフを並べて、その類似に気づいた自分にすら感心した。

両方とも老人のセリフ。類似。繰り返す、ということ。片やうまくなる。片やへたになる。そして、両方とも、何やら苦々しい気持ちが底にある。それは日々が《心ならずも》良い方向に向かっていない、ということのようだ。にもかかわらず、二つのセリフには等しく喜劇的な響きがある。それは何だろうと思う。一つには体はほとんど動いてないのに頭の中だけが動いてる、ということに起因しているような気がする。でもそれだけか？ 演じてもらいたい、いい役者に。そうすればもっといろんなことを感じられるだろう。そんなことを思いながら先刻の老婆たちを見ると、もう違う話に笑い興じていた。「これ以上いい役者がいる？」とばかりに。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。9・10月にさいたまゴールド・シアター『薄い桃色のかたまり』を上演予定。